

2027年度入学者用 大学院案内

東北大学大学院 文学研究科

Tohoku University Graduate School of Arts And Letters

- 総合人間学
- 広域文化学
- 日 本 学

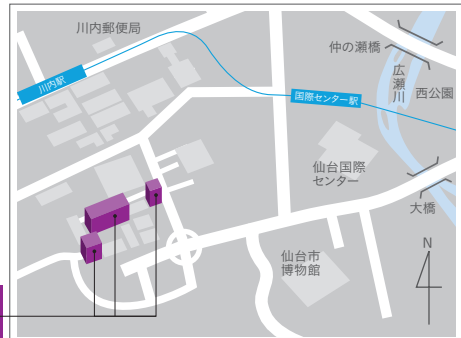
生きることは、
文学だ。



●川内キャンパスへのアクセス

- 仙台市地下鉄東西線利用**
- 地下鉄東西線**
仙台駅から川内駅(6分:210円)
川内駅南2出口から文学研究科(徒歩約5分)
- 地下鉄東西線**
仙台駅から国際センター駅(5分:210円)
国際センター駅西1出口から文学研究科(徒歩約6分)

※所要時間は交通状況等により異なります。



東北大学
文学研究科

東北大学大学院 文学研究科

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
TEL.022-795-6005(教務) 022-795-6003(総務)
FAX.022-795-6086

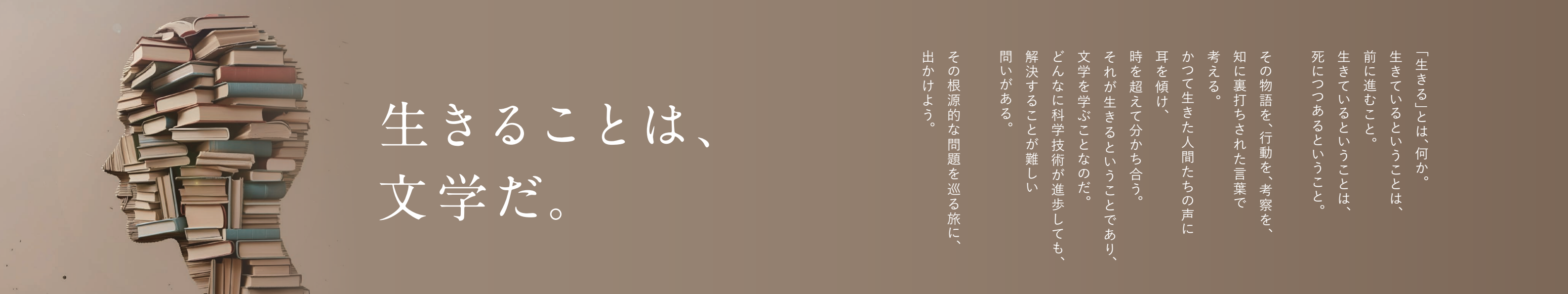
東北大学大学院文学研究科についての詳しい情報は、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sal.tohoku.ac.jp>

東北大学大学院 文学研究科

検索





生きることは、文学だ。

「生きる」とは、何か。
生きているということは、
前に進むこと。
生きているということは、
死につつあるということ。

その物語を、行動を、考察を、
知に裏打ちされた言葉で
考える。

かつて生きた人間たちの声に
耳を傾け、
時を超えて分かち合う。
それが生きるということであり、
文学を学ぶことなのだ。
どんなに科学技術が進歩しても、
解決することが難しい
問いがある。

その根源的な問題を巡る旅に、
出かけよう。

はじめに

東北大学文学研究科では、29に及ぶ多様な専攻分野を擁し、それぞれの領域を専門とする教員のもとで大学院生が研鑽を積む「研究室」制度を採用しています。関心の近い仲間との継続的なディスカッションは、視野を広げ、新たな発想を生み出す貴重な機会となります。研究室は単なる所属単位ではなく、学問的対話と切磋琢磨を通じて、個々の研究を構築していく重要な基盤です。

本研究科には、総合大学の利点を活かした学際的な研究の場も用意されています。たとえば「日本学国際共同大学院プログラム」は、新たな学際領域としての「日本学」の構築を目指し、人文社会科学系の部局が連携して設置した学位プログラムです。また「食科学国際共同大学院プログラム」は、人間の「食」を科学的に捉え、文系・理系の枠を越えて探究する学際的プログラムです。

さらに、海外の大学・研究機関との連携による国際的な学術交流も活発に行われています。文化的背景の異なる研究者との協働は、自らの研究を相対化し、新たな問いを見出す契機となるでしょう。英語・日本語による研究発表や論文執筆の指導、国際学会参加への支援など、研究成果を社会に発信するための体制も整えられています。本研究科は、このような環境のもとで専門性と広い視野を育み、次世代の人文学を担う人材の育成を目指しています。



文学研究科長 矢田 尚子

1967年愛知県生まれ。東北大学大学院文学研究科教授。
専門は中国古典文学で、『楚辞』を中心に、
先秦時代から唐代に至るまでの詩文研究に従事している。
2026年度より文学部長・文学研究科長。

入学について

◎多様な選抜方法

本研究科には、29の専攻分野(博士課程前期・博士課程後期)があり、「一般選抜」及び「社会人特別選抜」の学生募集を夏期と冬期の2回行っています(博士課程後期の一般選抜募集は冬期のみ)。前期課程については、2024年度入試から科目編成の見直しを行い、一部の専攻分野では試験科目の削減も行われましたので、ウェブサイトの募集要項で詳細をご確認ください。

◎他大学院修了生の受け入れ

本研究科以外の大学院で修士課程や博士課程前期を修了し、修士の学位を授与された学生を博士課程後期に受け入れ、博士(文学)の学位取得のため適切な教育・指導を行っています。

◎社会人、外国人留学生の受け入れ

社会人が、高度の専門性、専門知識を取得することを支援するために、社会人を積極的に受け入れています。
博士課程後期「社会人研究者コース」は、すでに研究歴を有する社会人を対象にその研究活動を支援するため在職のまま博士(文学)の学位を取得できるように設けたコースです。
また、外国人留学生も積極的に受け入れており、様々な国・地域出身の多くの留学生が学位取得を目指して学んでいます。
2023年度からは、英語のみで学位を取得できるIGSAL(国際大学院コース)を開設しています。

修学・研究を支援する様々な制度

◎後期課程における早期修了

既に一定の研究歴を持つ社会人研究者コース学生などが、大学院後期課程入学後に優れた研究業績をあげたと認められる場合、最短1年で課程修了することができます。

◎学際高等研究教育院の「研究教育院生」

東北大学には、異分野を融合した新しい研究分野で、卓越した知識と創造的な「総合知」の素養をもつワールド・クラスの若手研究者の養成を支援する研究科横断的な組織「学際高等研究教育院」があります。文学研究科の大学院生も、所定の条件を満たし審査に合格すれば、文学研究科に在籍したまま、「修士・博士研究教育院生」として奨学金を受給し各種の支援を受けることができます。

◎長期履修制度

職業を有している、あるいは出産・育児・介護で時間を必要とする等の事由のある学生は、入学時の申請によって、標準年限を超える期間を修学期間として設定することができます。これを許可された「長期履修学生」は、授業料の加増なしに、前期課程は4年、後期課程は6年を上限とする期間において、計画的な履修ができます。

◎後期課程学生への総合的な支援パッケージ

東北大学は、次世代のイノベーションを担い世界で活躍する卓越した研究者の育成と、多様なセクターへの高度専門人材の輩出を目指し、2026年4月より博士学生への総合的な支援パッケージを開始しました。詳細はウェブサイト等でご確認ください。

経済支援	研究支援	キャリア支援
研究奨励費 【学位枠枠】 年額240万円 【一般枠】 年額127.2万円	研究力強化 セミナーシリーズ ・英語力向上・論文執筆 ・研究発表等 ・オンライン学習 プラットフォーム [Nature Masterclasses on-demand] 等も利用可能です。	博士学生キャリア 講習
公募型研究費支援 (旅費支援等) ※LEAPプログラム採用となる 日本人学生等の授業料・入学 料は全額免除となります。 詳しくはウェブサイトをご確認 ください。 	トランスファラブル スキル研修 高度な専門性だけでなく、 様々な汎用的能力を身に つけることの重要性を学び、 今後の研究活動を考えていく オンデマンド型研修を提供し ています。	キャリア開発 支援
		留学生向け 日本ビジネス文化 研修 PhD C(博士人材キャリア デベロップメントセンター) でも様々な博士学生向けの キャリア支援情報、イベント の開催をしています。

文学研究科の教育方針

文学研究科における専門研究は、人文学・社会科学と呼ばれる分野に関わるものです。その研究対象や方法論はきわめて多彩で、文献や史料の読解を基盤とする人文諸学・歴史学から、調査や実験をもとに実証科学的な研究を行う分野まで広範囲をカバーしていますが、そこには、「人間とはいかなる存在か」を探究するという明確な共通テーマが存在します。

今日、高度産業技術が社会を急速に変容させてゆく中で人類は多くの困難な問題と直面し、その解決を模索する過程で、人文学・社会科学の知識や発想法の助けが強く求められるようになりました。複雑に絡み合った価値意識や世界観を読みほどこき、何がわれわれにとってよりよい状態つまり幸福 (Well-being) であるのかを見定めるために、「人間」のあり様を多面的かつ繊細に理解する「知」が必要となるからです。

文学研究科は、このような要請に応えるために、各分野の最先端の理論的・実践的研究を推進し、かつそれを基盤とした高度な教育を行います。それにより「人間」への深い理解と洞察力を持って社会の健全な発展に寄与することのできる教養ある専門職業人(各職域で豊かな知識と教養を活かして活躍する人財)、および

人文学・社会科学の知的遺産を確実に継承し、これを創造的に発展させることのできる高度な専門性を具えた職業人(各職域で自らの専門性を駆使して先導的な役割を担う人財)さらには研究者を養成します。

こうした人財は、各専門分野における先端的研究にコミットするだけでなく、分野や地域の枠にとらわれず、広い視野から自らの学問領域の意義を見定め、人類の発展にとって「知」がどう寄与しうのかを常に反省的に捉える賢明さを持たなければなりません。このため、文学研究科においては、分野横断的な教育を通じた柔軟かつ批判的な思考力の育成を重要な課題とします。

国際的な人の流動化や人口構成の変化を反映して、人文学・社会科学を学ぼうとする学生の多様化も進んでいます。文学研究科は、日本人学生と留学生の共修的環境を整備し、社会人の再教育ニーズに積極的に対応することで、多様な学生がそれぞれの目標に沿って自らの修学を完遂できるよう取り組んでいきます。それを通じて、「人間」と人間が作り出す「社会」の本質について深い洞察力を持ち、寛容な精神と柔軟な発想のもとで人類社会の持続的発展に貢献できる人財を養成することが、本研究科の教育目標です。

文学研究科の研究方針

日本学、広域文化学、総合人間学の三専攻からなる文学研究科は、「人間」と人間が作り出す「社会」のあり様を理論的かつ実践的に探究しますが、いずれの専攻も、基礎研究の継続的展開、学際的・国際的な先端研究の推進、成果の社会的還元という目的を共有しています。

まず、人文学・社会科学の各分野には、歴史的に積み上げられてきた長い研究の伝統があります。これを適切に継承しつつ、長期的視点のもとで基礎研究を継承・発展させること、また研究成果や研究資料の体系的な保存・整備に意を用いることが重要です。

同時に、時代の変化の中で生まれる課題に目を向けて新たな学問分野を開拓すること、国際的な研究拠点を構築し学際的・先端的な共同研究を推進することが求められます。そして、研究を通じて得られた成果を広く社会に還元し、人類社会の持続的発展に寄与することが、文学研究科の基本的使命です。



教育研究組織（現在）

(2026年5月1日現在)

専攻名	講座名	専攻分野名	担当教員名
日本学	日本文化学	現代日本学	教授／田中 重人 准教授／茂木 謙之介 助 教／西原 志保 准教授／赤井 紀美
		日本思想史	教授／片岡 龍 助 教／佐々木 隼相 教授／引野 亨輔
	日本語科学	日本語学	教授／大木 一夫 准教授／中西 太郎 助 教／劉 海燕 教授／甲田 直美 准教授／菊地 恵太
		日本語教育学	教授／小河原 義朗 准教授／島崎 薫 助 教／大西 由美
	日本文学	日本文学	教授／佐倉 由泰 助 教／丁 舒文 教授／横溝 博 教授／仁平 政人
	日本歴史学	日本史	教授／柳原 敏昭 教授／安達 宏昭 教授／堀 裕 教授／籠橋 俊光
		考古学	教授／鹿又 喜隆 准教授／松本 圭太 助 手／崔 笑宇
	[先端研究拠点教員]	日本史	教授／吉川 真司
	[先端研究拠点教員]	考古学	教授／飯塚 義之
	[協力教員]	日本史	教授／加藤 諭
広域文化学	域際文化学	文化人類学	教授／川口 幸大 准教授／越智 郁乃
		宗教学	教授／木村 敏明 准教授／問芝 志保 教授／谷山 洋三
		死生学・実践宗教学	教授／高橋 原
		インド学仏教史	教授／西村 直子 助 教／渡辺 亮
		中国語学中国文学	教授／矢田 尚子 准教授／張 佩茹 教授／土屋 育子
	東洋文化学	中国思想中国哲学	教授／齋藤 智寛 准教授／新居 洋子 助 教／費 康幸
		東洋史	教授／大野 晃嗣 准教授／渡邊 英幸 助 教／陳 穎
	西洋文化学	英文学	教授／大貫 隆史 助 教／飯味 千秋 教授／ティンク ジェイムズ マイケル
		英語学	教授／島 越郎 准教授／中村 太一 助 手／近森 藍璃
		ドイツ語学ドイツ文学	教授／嶋崎 啓 教授／ナロック ハイコ
		フランス語学フランス文学	教授／今井 勉 助 教／武藤 奈月 教授／黒岩 卓
		西洋史	教授／浅岡 善治 准教授／大谷 哲
総合人間学	哲学倫理学	哲 学	教授／荻原 理 淳 教授／城戸 塑 教授／原
		倫 理 学	教授／村山 達也 准教授／小松原 織香 助 教／栗山 勝行
	芸術人間学	東 洋 ・ 日 本 美 術 史	教授／杉本 欣久 准教授／大島 幸代
		美 学 ・ 西 洋 美 術 史	教授／足達 薫 准教授／ローレンツォ マリヌッチ 准教授／氷見野 夏子
	心理言語人間学	心 理 学	教授／阿部 恒之 助 教／ラエフスキー アレクサンドル 教授／坂井 信之 教授／辻本 昌弘 教授／荒井 崇史 教授／河地 庸介 教授／大森 美香 (お茶の水女子大学)
		言 語 学	教授／小泉 政利 准教授／木山 幸子 教授／内藤 真帆
	社会人間学	社 会 学	教授／小松 丈晃 助 教／高橋 知花 教授／田代 志門 教授／青木 聡子
		行 動 科 学	教授／浜田 宏 准教授／小川 和孝 准教授／水野 景子
		計 算 人 文 社 会 学	教授(兼)／浜田 宏 准教授／呂 沢宇

広域文化学	域際文化学	文化人類学	教授／川口 幸大 准教授／越智 郁乃
		宗教学	教授／木村 敏明 准教授／問芝 志保 教授／谷山 洋三
		死生学・実践宗教学	教授／高橋 原
		インド学仏教史	教授／西村 直子 助 教／渡辺 亮
		中国語学中国文学	教授／矢田 尚子 准教授／張 佩茹 教授／土屋 育子
	東洋文化学	中国思想中国哲学	教授／齋藤 智寛 准教授／新居 洋子 助 教／費 康幸
		東洋史	教授／大野 晃嗣 准教授／渡邊 英幸 助 教／陳 穎
	西洋文化学	英文学	教授／大貫 隆史 助 教／飯味 千秋 教授／ティンク ジェイムズ マイケル
		英語学	教授／島 越郎 准教授／中村 太一 助 手／近森 藍璃
		ドイツ語学ドイツ文学	教授／嶋崎 啓 教授／ナロック ハイコ
		フランス語学フランス文学	教授／今井 勉 助 教／武藤 奈月 教授／黒岩 卓
		西洋史	教授／浅岡 善治 准教授／大谷 哲
総合人間学	哲学倫理学	哲 学	教授／荻原 理 淳 教授／城戸 塑 教授／原
		倫 理 学	教授／村山 達也 准教授／小松原 織香 助 教／栗山 勝行
	芸術人間学	東 洋 ・ 日 本 美 術 史	教授／杉本 欣久 准教授／大島 幸代
		美 学 ・ 西 洋 美 術 史	教授／足達 薫 准教授／ローレンツォ マリヌッチ 准教授／氷見野 夏子
	心理言語人間学	心 理 学	教授／阿部 恒之 助 教／ラエフスキー アレクサンドル 教授／坂井 信之 教授／辻本 昌弘 教授／荒井 崇史 教授／河地 庸介 教授／大森 美香 (お茶の水女子大学)
		言 語 学	教授／小泉 政利 准教授／木山 幸子 教授／内藤 真帆
	社会人間学	社 会 学	教授／小松 丈晃 助 教／高橋 知花 教授／田代 志門 教授／青木 聡子
		行 動 科 学	教授／浜田 宏 准教授／小川 和孝 准教授／水野 景子
		計 算 人 文 社 会 学	教授(兼)／浜田 宏 准教授／呂 沢宇

総合人間学	哲学倫理学	哲 学	教授／荻原 理 淳 教授／城戸 塑 教授／原
		倫 理 学	教授／村山 達也 准教授／小松原 織香 助 教／栗山 勝行
	芸術人間学	東 洋 ・ 日 本 美 術 史	教授／杉本 欣久 准教授／大島 幸代
		美 学 ・ 西 洋 美 術 史	教授／足達 薫 准教授／ローレンツォ マリヌッチ 准教授／氷見野 夏子
	心理言語人間学	心 理 学	教授／阿部 恒之 助 教／ラエフスキー アレクサンドル 教授／坂井 信之 教授／辻本 昌弘 教授／荒井 崇史 教授／河地 庸介 教授／大森 美香 (お茶の水女子大学)
		言 語 学	教授／小泉 政利 准教授／木山 幸子 教授／内藤 真帆
	社会人間学	社 会 学	教授／小松 丈晃 助 教／高橋 知花 教授／田代 志門 教授／青木 聡子
		行 動 科 学	教授／浜田 宏 准教授／小川 和孝 准教授／水野 景子
		計 算 人 文 社 会 学	教授(兼)／浜田 宏 准教授／呂 沢宇

社会連携室	特任助教／阿部 友紀
評価研究推進室	特任准教授／中野 悦子
国際交流室	特任助教／柴崎 朝美
コンピュータ室	助 教／森川 多聞

教員の自己紹介については「教員のよがお」(<https://www.sal.tohoku.ac.jp/jp/research/researcher/>) を研究活動の詳細については「東北大学研究者紹介」(<https://www.r-info.tohoku.ac.jp>) をご覧ください。



文学研究科の学生は、研究室に所属して自分の研究を進めます。文学研究科の強みは、研究室を通じた研究・教育にあります。研究室の教員や他の学生と日ごろ気軽に議論をすることができ、そこから新しいアイデアが生まれます。

附属図書館も魅力的です。文学研究科に隣接する附属図書館本館は国内有数の蔵書を誇っています。300万冊近い和漢洋書があり、雑誌は和洋あわせて4万種以上あります。狩野文庫や漱石文庫などの特殊文庫や貴重図書も、附属図書館の宝です。また現在の研究では不可欠の、電子ジャーナルやデータベースも充実していて、学内からアクセスすることができ、活用のための講習会も随時開かれています。詳しくは附属図書館のホームページをご覧ください。

研究室や附属図書館での研究に疲れたら、カフェで一休みするのもいいでしょう。川内キャンパスには、モーツァルト・クレーズ・コーヒー、bush clover cafe、Bee ARENA Cafeという3つのおしゃれなカフェがあります。

他の研究室や学部・研究科の学生と会いたかったら、コモンスペースに行きましょう。まさに「共通の場所」で、いろいろな研究室や学部・研究科の学生が、国籍を越えて、議論したり談笑したりしています。

息抜きのために仙台の街を散策するのもいいですね。杜の都と言われるほど緑の多い街で、春の桜、初夏の緑、秋の紅葉、冬の澄んだ青空と、四季を通じた美しい自然と、近代的な街並みの調和を楽しむことができます。また青葉まつり、仙台七夕、光のページェントなど、さまざまなお祭りがあることも仙台の魅力です。キャンパス直結の仙台市地下鉄東西線を使えば、川内駅から仙台の街中まで、わずか5-6分で着きます。

皆さんも川内キャンパスで、そして仙台の街で、一生の思い出に残る学生生活を送ってみませんか？

◎主な関連特殊文庫

文庫名等	旧蔵者	冊数	分野
阿部文庫	阿部 次郎	5,190冊	日本文化全般
石津文庫	石津 照璽	4,773冊	宗教哲学
伊東文庫	伊東 信雄	4,526冊	考古学・歴史学
大類文庫	大類 伸	946冊	西洋史
狩野文庫	狩野 亨吉	108,000冊	和漢古典中心全分野
河野文庫	河野 与一	1,108冊	古典学
児島文庫	児島 喜久雄	1,494冊	西洋美術史
漱石文庫	夏目 漱石	3,068冊	英文学。書入
晩翠文庫	土井 晩翠	2,624冊	西洋詩関係。書入
ケーベル文庫	Raphael von Koeber	1,999冊	西洋哲学
ヴント文庫	Wilhelm Wundt	15,840冊	心理学中心
西蔵大蔵経	多田 等観	6,652冊	チベット学
金谷文庫	金谷 治	5,252冊	中国思想・哲学



履修方法等

博士課程 前期			博士課程 後期		
1 年次			1 年次		
1 年次は主として 授業に専念			博士論文研究にて研究指導を受け、修士論文などをもとに、学術雑誌に論文を発表する。		
課題や演習を通して研究テーマを絞り込む。			修士論文によるものを含めて2篇以上の論文を学術雑誌に発表する。		
4月中旬 研究題目届提出			7月末 博士論文作成計画書II提出		
10月 修士論文・修士研究題目届提出			12月上旬 博士論文題目等調査書提出		
1月上旬 修士論文・修士研究提出期限論文審査教員の決定			1月上旬 博士論文提出		
2月 修士論文口頭試問			1月下旬 博士論文審査委員会の設置		
3月上旬 修了判定			2月ごろ 博士論文審査		
3月下旬 学位授与			3月下旬 学位授与		

免 許

・教育職員免許状
一定の条件を満たしている場合、所定の科目を履修することにより、中学校教諭専修免許(国語、社会、英語、宗教)および高等学校教諭専修免許(国語、地理歴史、公民、英語、宗教)を取得することができます。

■ アーキビスト
アーキビストとは、国や自治体が設置する公文書館をはじめとするアーカイブズにおいて働く専門職員のことです。本研究科の「認証アーキビスト養成コース」に登録し、所定の授業科目の単位を修得することにより、認証アーキビストの申請の一つである「1号申請」の「大学院での一定の単位修得」の要件を満たすことができます。認証アーキビストの詳細については以下をご覧ください。
<https://www.archives.go.jp/ninsho/aboutCAJ/>

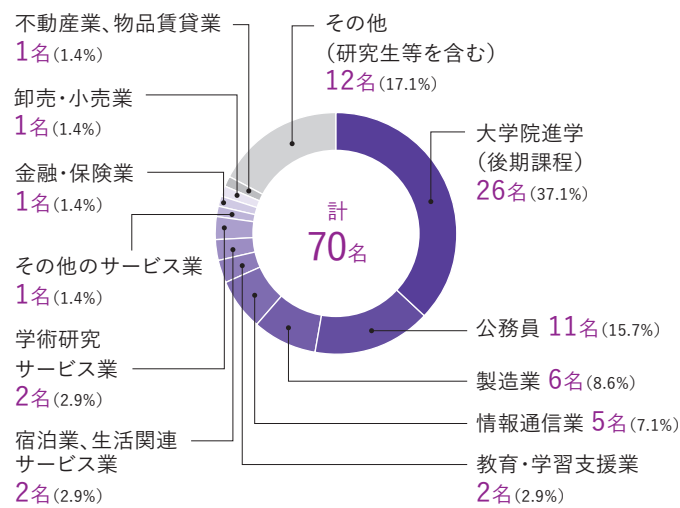
■ スピリチュアルケア師
スピリチュアルケア師とは、医療・福祉・教育・産業をはじめとする諸分野で、他職種との連携(ケアチーム)の中で、責任をもってスピリチュアルケア領域の専門性を担う人材です。本研究科の死生学・実践宗教学専攻分野は、日本スピリチュアルケア学会の「認定教育プログラム」の提供団体として承認を受けています。死生学・実践宗教学専攻分野に所属してこれを修了することによって、日本スピリチュアルケア学会による資格審査を受験することができます。

奨学制度

日本学生支援機構の奨学金貸与、日本学術振興会のPD及びDC特別研究員などの制度を利用することができます。また、学内の措置として、教育補助業務等により、学部教育の充実を図るとともに、大学院学生に対して指導者としての機会を提供しようとするティーチング・アシスタント(TA)や博士後期課程の学生を対象に研究科内のプロジェクト等に参加させることにより研究体制を強化すると同時に若手研究者の育成等を図るためのリサーチ・アシスタント(RA)制度があります。

進 路

◎2025年度博士前期課程修了者の進路状況

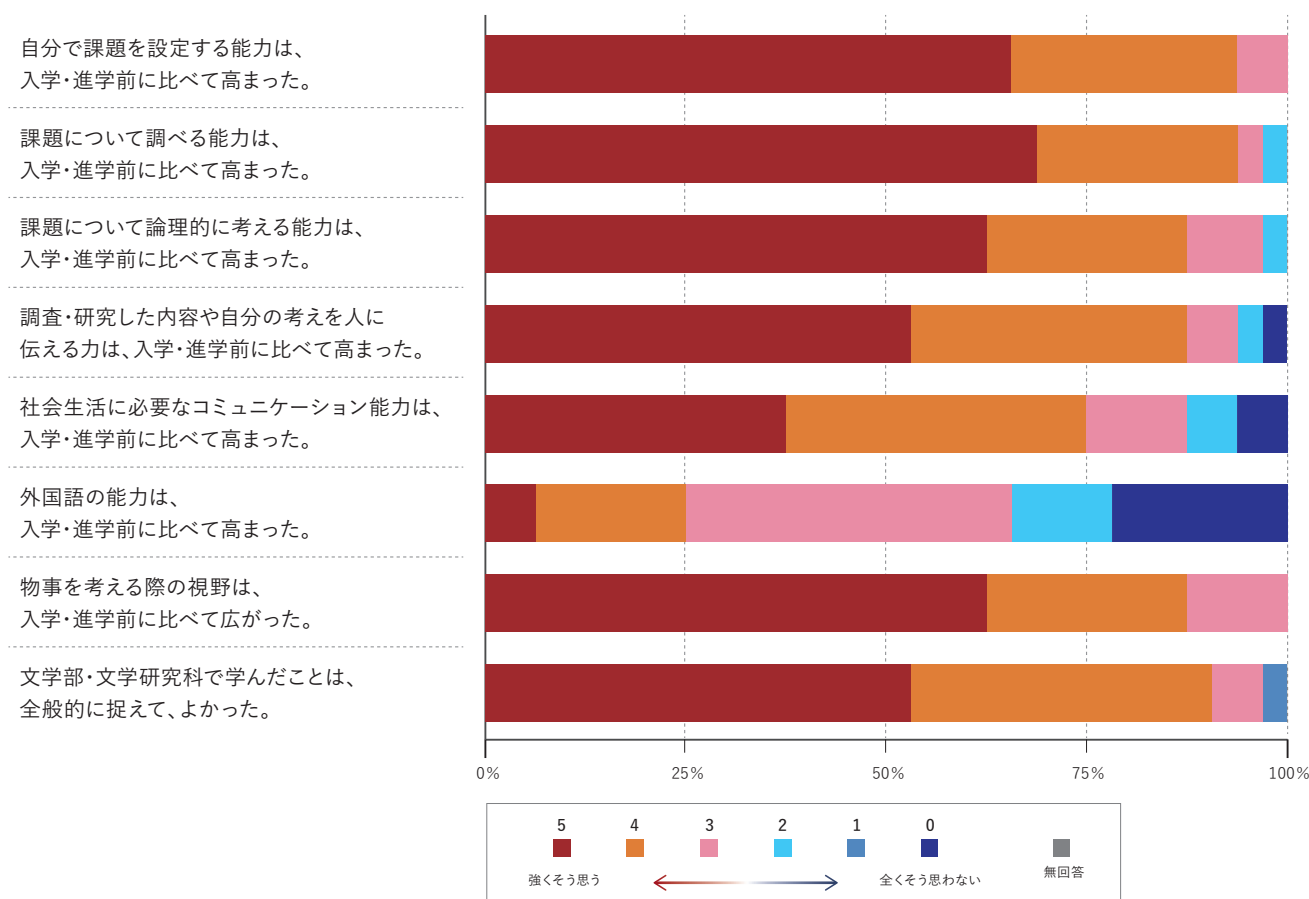


◎主な就職先

- 秋田市役所
- 岡崎市役所
- 札幌家庭裁判所
- 滋賀県庁
- 静岡放送
- セガ
- 鉄道総合技術研究所
- 東京出入国在留管理局
- 東北大学
- 松本市役所
- 三井不動産レジデンシャル
- 三菱総合研究所
- 美馬市役所
- 宮城県庁
- 文部科学省
- 矢崎総業
- 読売新聞東京本社
- ルートインジャパン

文学研究科修士の教育効果に関する調査結果

※本調査は、前期課程、後期課程、論文博士の回答を合算し、「大学院学生」として集計しております。



2025年度修士の論文題目（課程博士）

● 温庭筠詩研究 / ● 羽州の肝煎・高橋正作論 — 飢饉と闘った軌跡から — / ● キリスト教による「近代の超克」 — 吉満義彦思想史研究 — / ● 松永材とその「日本主義の哲学」 — 「超越者」天皇を基軸とする「神学」の形成・発展・結実 — / ● 江戸時代における天文占 — 渋川春海と谷秦山を中心に — / ● 新聞記事のナラトロジー — 話法・人称・時制・接続詞にみる語りの構築 — / ● 『古今和歌集』歌ことばの和漢比較的研究 — 受容から創造へ — / ● 東日本における後期旧石器時代前半期の石器製作に関する動作連鎖分析と実験研究 / ● 悪熊追放 — アイヌ口承説話における悪と互酬性をめぐる宗教人類学的研究 / ● 明代中期知識人の思想動向：正徳年間における王陽明とその交遊者を中心に / ● James Joyce's Dubliners: Encounters with the Void (ジェイムズ・ジョイス『ダブリンズ』 — 虚空との出会い) / ● Aspects of Predication (叙述の諸相) / ● Partial Manifestations of Events (事象の部分的な現れ) / ● her-を含むドイツ語の分離前綴りの研究 / ● 初期中世におけるイングランド人の自他認識 — 古英語後期文献の分析から / ● Bruno Latourの代理概念に関する哲学的考察 — 技術的媒介における人間と非人間の関係性の再構成 — / ● 時間・否定・様相：ベルクソン動的実体論の展開 / ● 表情知覚過程に関する心理学的研究 — 全体処理に基づく幸福顔優位性 — / ● Behavioral Studies on Anxiety-Related Behaviors in Mice (マウスの不安関連行動に関する行動学的研究) / ● 成人・児童の中国語母語話者の日本語語彙処理：書字・音韻依存性と母語の言語能力の影響 / ● Japanese Stop Voicing Contrast Revisited: A Laryngeal-oriented Empirical Study (日本語閉鎖音の有声性対立についての再考 — 喉頭機能を中心とする実証的研究 —) / ● 「地方」を生きる性的マイノリティの社会学 — ルーラル・ティア・スタディーズの視角 — / ● 清朝末期における中国人女性の日本留学と教育活動 — 湖南省の事例を中心に — / ● 儒家神道における神話と儀礼の再構築 — 垂加神道を中心として / ● 日本語交渉談話の構造と言語戦略 / ● On Syntactic Amalgams in English (英語の統語的融合体について) / ● 軽度失語症のある人における日本語意味的可逆他動詞文の聴覚理解 — 脳波・行動実験・臨床実践による検討 — / ● Work Locations and Mental Distress During COVID-19: Impacts, Mechanisms, and Buffering Strategies (COVID-19における勤務場所とメンタルヘルス：影響、メカニズム、および緩和要因) / ● 近世・近代日本における〈場所〉と生 / ● 近世東廻り航路の領主米輸送と沿岸地域社会の研究

在学生からの
メッセージ

Message #1

フランスに1年間留学し
本物を調査・見学してきます



総合人間学専攻
美学・西洋美術史専攻分野

堀田 千鶴さん Chizuru Hotta

博士前期課程1年 [福島県立磐城高等学校卒業]



私は18世紀フランスのロココ美術における、ジェンダーが曖昧に表現された人物像を研究しています。

私がこの研究室を選んだのは、芸術作品そのものと向き合い、制作の意図や受容の歴史などを調べたり考えたりする研究過程に興味を持ったからです。

美術作品はそれ自体が観た人のさまざまな感情を掻き立てるものですが、一つの作品を通してたくさんの物語や歴史、思想、そして人々の生き方に触れることができるのも魅力の一つなのではないかと感じます。

研究室では、個人の研究を進めるだけでなく、これまでの美術史研究を批判的に再検討したり、美術に深く関わる哲学的思想を学んだりしています。こうした環境の中で、多角的な視点から研究を行うために必要な、知識や考え方を養うことができていると感じています。また、日本にとどまらず、グローバルな研究環境に目を向けやすい点もこの研究室の魅力です。研究室の先輩方の多くがイタリアをはじめとしたヨーロッパの国々への留学経験を持ち、私自身も2026年夏からフランスに1年間留学し、現地で実物の西洋美術作品を調査・見学する予定です。

在学生からの
メッセージ

Message #2

終わりのない
「言葉」との向き合い



広域文化学専攻
中国語学中国文学専攻分野

榊原 慎二さん Shinji Sakakibara

博士後期課程3年 [千葉県立佐原高等学校卒業]



学部時代は東京で過ごし、修士課程から東北大の文学研究科で学び始めました。研究室に行ってみて驚いたのは、先生と学生、そして学生同士の距離がとて近いです。そこには年齢も背景も異なる仲間たちと語り合い、机を並べて文学に向き合える場所がありました。

私が研究している「賦」は、古代中国で生まれた韻文の一種です。一般的によく知られる「詩」よりも長くて分かりにくい文体ですが、その難解さが物語るのは、古代の人々が見ていた世界の豊饒さです。それと同時に、日ごろ漢字を自在に使いこなしているはずの自分が、漢字文化全体のごく一部しか知らないということも思い知らなければなりません。

私にとって研究とは、たとえ疑問は解決しなくとも、分かるところから考えていく作業の繰り返しです。一つの論文で書けることはわずかで、よい論文を書くには沢山読まなければなりません。だからこそ研究には終わりがありません。

文学研究科では、研究指導だけでなく経済的支援なども充実しています。私も生活の様々な側面を支えていただき、決して容易ではない研究活動も地道に続けていくことができました。これから入学される皆さんにも、この恵まれた環境で学んでいただければと思います。

卒業生からの
メッセージ

Message #3

自分がハマった歴史研究の
楽しさ・面白さを伝えていきたい



お茶の水女子大学
日本史専攻分野

遠藤 みどりさん Midori Endo

2011年度博士後期課程修了 [福島県立福島女子高校卒業]



私が大学院に進学したのは今から20年以上前になります。子どもの頃から歴史小説などが好きで、漠然と歴史に関わる仕事がしたいと思っていました。大学院に進学したのも、授業や研究会などで先生や先輩方が楽しそうに研究に取り組む姿を見て、自分ももう少しやってみたいと思ったことがきっかけでした。

卒業論文では、日本古代の女帝について、女性史や家族史の視点からアプローチしたのですが、修士課程進学後の恩師の「女帝だけじゃ研究が広がらないな」との一言で、女帝について明らかにするためには、女帝だけではなく、天皇そのものについて研究する必要があるのだと思い至り、さらに研究の面白さにはまりました。

当時の研究室には、内部進学だけでなく、他大学出身者や留学生・社会人など、様々な経歴や年代の方々が在籍していました。また、日々の研究活動以外にも、資料レスキュー活動や史料館・博物館等でのアルバイトなどに誘ってもらったこともあり、様々な経験や刺激を得ることができました。現在まで研究を続けてこれたのも、この院生時代のつながりや経験のおかげです。今後も大学教員として、歴史研究の楽しさを伝えていければと思います。